育兒叢談（九）

◆乳兒の腦膜炎

鉛中毒から起る

（母親は注意せよ）

（大正十五年三月一日東京日日新聞所載）

近ごろ乳兒の鉛毒に注意を拂ひ出した。玩具の塗料から鉛毒が起ることがあるが、澤山あるものではない。母親の化粧する白粉の含鉛が乳兒に恐るべき毒を與へることが知られて來た。前京都醫科大學教授平井博士の研究が、動機であるが結核性でも流行性腦脊髄膜炎でもない一種の原因不明の腦膜炎樣の疾患が乳兒にあつた。これを弘白博士は「いはゆる腦膜炎」と假稱してゐた。主に夏季に母乳榮養兒が、丁度生齒期に當つて暗綠色の不消化便を排泄し激しきけいれんと吐乳を起し腦膜炎と同じ狀態の非常に危險な疾患にかゝることがある。殊に京阪地方にこの種の病氣の多いのは不思議とされてゐた、この原因に對し學說もあつたが、平井博士の研究で母親の化粧料の鉛をふくむ白粉から來た鉛中毒であると確定された。母親が長い時日にわたつて白粉を使用してゐて、直接には乳兒が毎日その粉を攝取し、間接には母體の血液の中へはいつた鉛分が、乳の中へ分ぴつされたものを攝取する。この二つの原因のために乳兒が恐るべき疾患を起すので腦膜炎にかゝる乳兒の母親の常用してゐる白粉を試驗してみると、多量の鉛分をふくんでゐる。またその乳兒の糞便を化

學的に分析すると多量の鉛分を發見し得るのである。

アセモに白粉を塗るな

子供が不具者になる。併し含鉛の白粉を使用する母の乳兒は總ての疾患にかゝるかといへばさうではない。之を三つにわけると(第一)含鉛の白粉を常に使用する婦人はしば〳〵流産する。(第二)その乳兒は生後六ヶ月以後になると發育不良となり、皮膚の色が蒼白となり、時には消化不良便をもらす。これを不注意に診察されゝば、消化不良傷害、或は榮養傷害と診斷されてゐる、そして榮養不良狀態で發育してゐる場合が多い。これは鉛中毒ではないかと、著眼して見ると、暗綠色の下痢便を排泄し、爪の色が褐色か黑色に變じ、場合によれば齒が生へた乳兒は齒ぐきと齒の間に黑いものがたまつて齒の根が黑く見える。これは十中八九は白粉の鉛中毒だから速に適當な治療をしないと將來發育しないし、腦膜炎にかゝつて死ぬおそれがある。(第三)「いはゆる腦膜炎」で、三ヶ月或は數ヶ月、惡い不消化便が續き突然はげしいけいれんと吐乳を起し、眼球をつりあげ、齒ぎしりをして手足を突つ張り、そのまゝ死ぬものもあれば幸に死をまぬがれても將來白痴、盲人・聾者の結局いたましい不具者となつて生存する。東京にはこの第二に當る疾患が相當に多くある。また比較的花柳界の子供の弱いのは、なげやりにしてあるためかと思つてゐたら、その大部分は鉛中毒に原因してゐたことが知れたそれでは乳兒の恐るべき鉛中毒を豫防するには母乳の化粧料に出來るだけ無鉛の白粉を選び、乳の上にはなるべく白粉をつけぬ樣に注意したい。また陽春から夏季にかけて子供にアセモが出來ると白粉をぬる習慣があるが、これは危險だから絕對に止めねばならぬ。たとひテンカフンでも、純良なのを選ばぬといけない。